

令和元年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人幸輪会
幸輪保育園

評価項目の達成・取組み状況・これから改善したいこと

評価項目	取組み状況
I 保育の計画性	社会福祉法人幸輪会の理念に基づいて、保育方針や保育目標を揚げ、保育課程や保育活動計画を作成。新保育指針が0・1・2歳児の保育の重要性と記載の充実があげられていることから、個々の発達を踏まえた上での年間計画や月間計画を立て、生活の連続性や乳児期にふさわしい経験が積み重ねられるようこれからも保育実践を充実させたい。
II 保育のあり方・子どもへの発達に応じた対応	異年齢保育では子ども達が互いに刺激を受けながら育ち合う姿が見られる。保育士は、子ども達一人一人の様子を把握し、子ども達が興味や関心を持ち、主体的に活動できる環境を整えた。
III 保育者としての資質や能力、良識、適正	保育士の保育経験(年数・方法)に開きがある。チーム内での会議や、園内研修を行い、保育理念や保育方法についての共通理解を図り、職員一人一人の能力の向上に努めている。また、職員のそれぞれの得意分野を保育に取り入れ、チーム力を上げることで子ども達が様々な経験が出来る保育集団を目指している。
IV 保護者への対応・支援	保護者の親としての立場を尊重しつつ、家庭と対等な立場を築いて互いに協力しながら子どもの育ちを支え、子どもの成長の喜びを共有していきたい。また、子どもの成長を共有する中で、今どのような環境が必要なのか、保育の専門性を生かし保護者支援を行っている。
V 地域や社会との関わり・地域子育て支援	園周辺を散歩する際には地域の方の協力のもと、季節の作物に触れる機会を作っていただき、子ども達が自然に触れることが出来る。地域のデイサービスや文化祭などへ参加し、子ども達は地域の方との触れ合いの中で社会性を身に着けることが出来ている。 週に一回園庭開放を行い、未就園児の親子が遊びに来ている。保護者の方が子育てで悩んだ時には、気軽に相談できるコミュニティーでありたい。
VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲、態度	法人独自の研修を実施し、法人の保育理念や保育方法についての共通認識を醸成している。また自己課題を明確にして園内研修を行い課題の解決にあたっている。個々の課題に応じて外部の様々な研修に参加し、保育の専門性を高め記述や知識の習得に努めている。今後の更なる保育の質の向上を目指している。